

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570500062		
法人名	株式会社 アイエスアイ		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地	滋賀県東近江市聖徳町4-23		
自己評価作成日	平成22年9月27日	評価結果市町村受理日	平成22年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570500062&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ニッポン・アクティヴライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜 432番地	平和堂和邇店	4F
訪問調査日	平成22年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさくら苑では、その人らしい生活を支援できる様、関わりを多く持っている。利用者様が話しやすく、又、孤独感を和らげる為、担当職員制度を行っている。担当職員は、より、個人との時間を多く持ち、信頼や安心を感じてもらえる様、取り組んでいます。食事やおやつ等、楽しみを感じて頂けるよう工夫している。又、接遇面においては、人生の先輩である事を念頭に、丁寧な対応を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が広がる住宅街の中、広い敷地の中に関連施設とともに建つグループホーム さくら苑は広い前庭と菜園を持ち静かな環境の中にある。大きな開口窓からは光がいっぱい差し込み明るい雰囲気を作っている。床暖房が全館に施され高齢者にとっては快適な生活空間である。個人ごとのきめの細かいフェースシートや介護日誌、職員の担当制により個人個人の希望に沿ったきめ細かな介護の提供に努めている。利用者の明るい表情や歌声があふれているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲げ、職員は周知している。又、理念を踏まえた行動を行うよう心がけている	「その人らしい楽しみの持てる生活を支援し、地域のつながりを大切に」という簡潔なこの事業所の理念を掲示し、月例のスタッフ会議では、理念についての話し合いを行い、職員はその趣旨をよく理解して問題解決の判断基準としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(盆踊り、敬老会)、子供会神輿の休憩所としての敷地提供、夏休みラジオ体操の敷地提供等	自治会、敬老会の行事には参加し、南部祭りなどにも参加したり交流は活発である。買い物に行くスーパーの店員とも会話をしたり、散歩で出会う近所の人たちと話をしたりと地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年は計画できなかったが、認知症講座を地域の公民館にて行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議冒頭にて、活動報告等を行っている。会議出席者からの意見や提案を取り入れている。	地域住民代表、家族代表、行政、事業所代表で構成している運営推進会議は、2か月ごとに開催、議事録を残しているが活動報告の域を出ていない。また出席者名も記載されていない。	運営推進会議のメンバーとの協力で地域との交流をますます活発化することを期待する。議事録には参加メンバーを記載されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援専門員の事例検討会への参加	市のいきいき支援課との交流は活発に行って介護問題の相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為はスタッフ全てが理解できる様資料を作り、理解に努めている。	現在、身体拘束の事実は皆無である。マニュアルを整備し、全職員の理解と徹底に努めている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。個室の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時等に全身の確認を行い、傷等の発見があった場合には考えられる要因をスタッフ全てで注意する様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者/計画作成担当者は理解しているが、職員全ては取り組めていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明及び疑問点について話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置している	玄関に意見箱を設置している。月1回程度の家族の来訪時には利用者の報告とともに家族の要望聴取に努めている。これらを補完するため、家族アンケートを実施し、運営に反映させている。事業所以外の外部相談窓口も明記し説明している。	家族が忌憚のない意見や要望を云える場として事業所主体で家族会を設立してほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ショートミーティング、定例会議時にスタッフに発言を促している。	ミーティングの都度、発言を求めているが、職員の提言や意見を求める特別の時間設定はしていない。	提案制度や提案箱などを設置し 職員が意見を気軽に言える機会を作りたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス導入の為、新たに人事考課を取り入れ、各手当の新設を協議中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部管理者会議において、研修計画を策定し計画に沿って内部研修、外部講師を招いての研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に管理者/計画作成担当者及び希望職員共が出席し同業者とのコミュニケーションを図る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち、本人との信頼関係の構築に力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かな報告や、相談など密に連絡をとる様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込相談に対応すると共に必要と判断すれば居宅ケアマネに同席してもらう等、見識を広げるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理やおやつ作りでは、利用者様に作り方や味見をしてもらったり、何気ない日常の会話の中でも冗談を言い合ったりと喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、どんな事でも報告を行い、一緒に本に様にとって良い方法を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時住まわれていた地域へ、外出時立ち寄りしている。事業所の買い物等利用者様と一緒にしかける事もあり、なじみの方と出会った場合には会話等出来る支援を行っている。	職員と一緒に買い物時などの機会に住み慣れた地域へ立ち寄り、なじみの人と会話を楽しんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なじみの関係を大切にし、座る場所、レクリエーション時のグループ等、関係を大切にしている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活ペースは本人様に決めて頂いている。	利用者がその日にしたいことを自由に行えるよう援助している。意志表現が困難な利用者にはフェースシートや介護記録を参考に利用者がしたいと思っているだろうことを2、3提案し、それを行ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの暮らし等を把握し、ケアプランに生かしていくよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態等、日々の行動や表情等細かく観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様からの話を基に、スタッフの意見を取り入れ介護計画を作成している。	介護計画は6か月ごとに見直しを行っている。担当の職員との協議の上スタッフ会議で決定している。計画作成には医師の意見は取り入れているが参画していない。計画は利用者、家族の承認を得ている。	介護計画の見直しは3か月毎に行ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には毎日記入し、勤務時間や受診、家族様の言葉等を色分けし、スタッフ誰が見ても理解できる様取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院については、基本的には家族様に協力を仰いでいるが、家族様の都合次第では、スタッフが対応している。個別ニーズで買物外出等を取り入れている。併設事業所間の利用者との交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供達や、町内の方との接点を持っている。具体的には、ラジオ体操の場所提供や子供神輿の休憩所として提供している。町内の相談役の方が防災計画を提案して下さり、地域の協力を仰いで下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様又はスタッフにより定期受信は必ず受けるようにしている。	9名の利用者のうちかかりつけ医の受診を受けているのは2名のみである。通院介助は基本的には家族が行うことになっているが、現状はほとんど事業所が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理はスタッフがやっているが、必要時にはかかりつけ医院や関連事業所看護師に意見や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様又は医療スタッフとの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化については職員間での思いや出来る事、出来ない事を話し合っているが、取り組みについては具体的な方法が確立していない。	過去に看取りを経験しているものの事業所としての基本的な方針は確立していない。	早急に事業所の方針を確立し家族に説明を行い方針の共有化を計り文書化による確認を望みたい。また、医療連携体制加算についても研究をして欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別には救急法を受けた者がいるが、事業所として定期的な取り組みは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、地域の協力を得られる仕組みを話し合っている。	年1回の避難訓練は実施しているが、自主訓練となっている。災害時のマニュアルも整備している。	消防署の協力を得て、年間2回の訓練実施を望みたい。その際には、運営推進会議の力を借りて 地域の協力が得られるような取り組みを実現してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、その方に合った話し方をしている。ケアに対しても本人のプライバシーを大切にケース記録は外から見えないよう配慮している。	個人記録等は事務所内のロッカーに保管している。職員は利用者を人生の先輩として敬っており、いろいろと指導してもらうことに感謝をしている。やさしい言葉づかいで接しており、誇りやプライバシーを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の過ごし方や入浴の可否等は本人様に確認を行い、自己決定してもらっている。個別での関わりを持ち、話しやすい雰囲気作りの努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、その日の本人様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は2カ月に1度、訪問カットに来て頂いている。化粧品等は一緒に買い物に行き選んだりしている。美容ボランティアの訪問もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけに工夫を凝らし、喜んでもらえるよう取り組んでいる。お楽しみメニュー等を取り入れ、利用者様の希望を聞けるよう取り組んでいる。	利用者は能力に応じて食事の準備に参加している。個々の状態を考慮して調理の方法を変えて食べやすくしている。職員は食事を共にしていない。	職員は利用者と同じ食事をとって、楽しい時間にして欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な水分の摂取を行っている。献立については食材業者において、栄養管理できるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前、起床時に歯磨きを行っている。又、義歯については、消毒日を設定し、計画に沿って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を考慮し、声かけを多く行っている。	克明な個人別排泄管理シートを作成しており、それにもとづいて声掛けなどを行って支援している。改善、自立にいたるケースは、未だ生れていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防におやつ時等に牛乳を利用した物を提供したり、起床時にコップ1杯の水を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を聞き可否を決定している。入浴剤を利用し、香りを楽しんで頂いたり、季節時には、ゆず風呂等も行っている。	本人の希望に従い毎日でも入浴を楽しめる状態にしている。設備面でも手すりや入浴椅子など工夫して、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の基本時間はあるが、本人様の状態を尊重し自発的に就寝できる様、関わりを持って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に最新の個別の薬の説明書を綴り、いつでも確認できるようにしている。各人の1日分をセットし手渡しを行い、服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に沿った行事を行い、食事やおやつも教示に合ったものを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物外出や季節の外出、本人様の希望に沿って散歩等を行っている。	近隣のスーパーへの買い物や散歩などは行っているが、総ての人が順番にいけるような計画に基くものにはなっていない。家族や近隣ボランティアの協力は未だ実現していない。	近隣にボランティア組織がないとのことであるが大勢で外出の折には運営推進会議のメンバーの力を借りて全員が外出できるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、お土産等おこずかいから購入できる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、随時家族様と電話できる様にしている。また受診結果や連絡時等、利用者と電話を代わり話せる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアテーブルには、庭に咲いている花を飾り、居室には本人様が作られたカレンダーを飾っている。	広々とした居間やくつろげる談話室、寝っころがれる和室など我が家の雰囲気をだしている。壁には利用者の作品が飾られ、ほのぼのとした雰囲気である。車いす利用でも入れる便所も完備しており、安心して暮らせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの場所にTVがあり、気のあった方同士で会話や、視聴を楽しまれている。和室では、一人ゆっくりされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用されていた家具等持ち込まれ、自由に利用して頂いている。	洋式の個室は各室にエアコンを完備し、各人が慣れ親しんだ家具を持ち込み作品などを飾って、こじんまりとした中にも居心地良く自分の生活に浸れるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等には場所の名前を書き、居室には名前を書いた表札を掲示し、混乱を防いでいる。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	職員全ての意思、技術、事業所施設の設備等、出来る事、出来ない事の具体的課題が分からないのが現状である。	ガイドラインを作成し、スタッフ全てが同じ思い、考え、事業所の方針を策定する。	重度化、ターミナルについて、幾度もミーティングを行う。	6ヶ月
2	34	スタッフ全てが、滞りなく対応する事が出来ない。又、マニュアルが分かりにくく、理解し難い。	スタッフ全てが、救急法及び対応を滞りなく行う事が出来るようにしたい。	マニュアルの見直し、全体的な講習会の導入。	6ヶ月
3	11	ミーティングや通常時の職員の発言がなかなか無いのが現状である。個々の職員の気づきや発想などが生かせていない。	個々の職員が、気軽にまた建設的に発想や気づきを歌えられる環境作りを整備する。	提案書の導入、管理者/施設長等と職員とのコミュニケーション支援策	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。